



## 色彩館に咲く

### サルココッカ

*Sarcococca humilis*

ツゲ科サルココッカ属

原産地：中国からヒマラヤ、南東アジアに分布



## 庭を引き立てる縁の下の力持ち

サルココッカは草丈 60cm 程度の常緑低木で、分布している地域の森林や雑木林など湿気のある日陰に自生しています。葉はつやつやとした照り葉で、2月から3月にかけて白い花を咲かせます。葉の裏に隠れるように花をつけ、満開時には良い香りが周囲に広がります。色彩館でもこの時期に花を咲かせ、サルココッカが植栽されている花壇を通るとふんわりと良い香りに包まれますよ。花が終わると、つやつやとした紫がかった黒色の実をつけるので、葉や花だけでなく実も楽しむことができます。

サルココッカはとても丈夫な性質を持っています。本州や欧米では公園などの園路ぶちや、背の高い樹木の足元に植栽するなど、根元の目隠しや、あまり踏み固めたくないような場所にも使われます。また、耐陰性があり大気汚染などの厳しい環境下でも耐えることができます。寒さにも強いとされていますが、北海道での屋外越冬は難しいようです。

北海道では越冬が難しいサルココッカですが、同じツゲ科の仲間には北海道でも越冬できるものがある

ります。その中の一つにクサツゲという矮性の園芸品種があります。枝がやわらかくよくなるため、岩見沢でも冬囲いをせずに越冬することができます。バラ園の整形式ガーデンの一部にも植栽されており、足元がすけて見えてしまう場面を締める役割をしています。

学名ではサルココッカと呼ばれていますが、英名はスイートボックス (Sweet box) と呼ばれます。これはギリシアのコリント人がツゲ科の植物をもとにした木材を使ってピュクススという木箱を作っていたことが由来となっています。ツゲ科の植物は、木目が緻密で加工後の狂いが生じにくいことから古来より細工物の材料として親しまれてきました。日本ではつげ櫛を始め将棋の駒や三味線のバチ、印鑑の材料として、外国ではチェスの駒やバグパイプのパーツとしても使われています。

他の植物を引き立てたり、加工品の材料とされたり、縁の下の力持ちのような存在として人との関わりの濃い植物といえるかもしれませんね。



色彩館大温室のつるバラの剪定、葉むしり、誘引もなんとか終えて一安心ですが、それにしてもどこまで続いているかわからないほど枝が長いです。約 10 年ほど植栽されている古株ですから当然かもしれませんが、これは温室ならではの伸びですね。北海道のような寒冷地や豪雪地では外での栽培は冬越しを考え、お盆過ぎには枝の充実を図るためにシュートを止めます。品種によって止める時期は多少異なりますが、枝を伸ばすのにそれなりの時間を要します。本州の暖地ではつるバラのシュートは特に止める必要が無く（四季咲きつるバラは異なる）夏の高温期に成長が止まるものの、枝の伸び具合は圧倒的に暖地のほうが良いです。色彩館大温室は暖地での冬の気温に近く、夏は涼しく生育期間がとても長いです。暖地でのつるバラのボリュームには圧倒されますが、色彩館もそれに近い、もしくはそれ以上のボリューム感が楽しめます。入場料 100 円はお得すぎます！見ごろは 4 月下旬～5 月下旬となっておりますが早咲きの品種は 3 月頃より開花を始めます。



モッコウバラ 木香薔薇 と 奏でる 二胡 の 調べ  
3 月 20 日 ① 14:00 ~

場 所：いわみざわ公園バラ園内  
室内公園「色彩館」 大温室

入場料：高校生以上 100 円  
小中学生 50 円

※幼児無料・障がい者手帳ご提示でご本人様と付添人様 1 名まで無料

演奏  
shoko さん

中国の楽器 二胡（にこ）と、中国原産のバラ 木香薔薇（モッコウバラ）の競演。  
ひとあし早い麗らかな春の訪れを、ここ 色彩館で感じませんか？

放射冷却  
の話



きーん。

雲ひとつない晴天なのに、耳や鼻が取れそうなくらい寒い日ってありますよね。これは放射冷却といって、昼間に太陽によって暖められた地面や空気が夜に熱を放射し、地面付近の温度が下がる現象です。

これは熱いものは冷たいものへ熱が流れていく性質があるためです。熱々のお茶や、お風呂などが徐々に冷めていくのも同じことがいえます。

それらを冷めないように蓋をしますが、この蓋の役割を担っているのが雲や風です。この性質が地球規模で行われていると思うと途方もなく大きいスケールでちょっと呆然としてしまいます。

よし  
なし  
ごと

MIZ

# ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹  
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗  
(イラストレーター)

## 第三十五回

ラージ フラワード クライミング ローズ

ブラン ピエール ドゥ ロンサール

Blanc Pierre de Ronsard

作出国：フランス

作出者：Meilland

作出年：1999年

ハーディネスゾーン：Z6

返り咲き性

交配：ピエール ドゥ ロンサールの枝変わり



Blanc  
Pierre de  
Ronsard

以前、緑の相談コーナーだより No.347、ひとつきひとバラの第2回で紹介されたピエールドゥロンサール(以下、ピエール～)の枝変わりの品種です。ピエール～はバラ栽培に携わっている人ならまず知っていて、世界でも一番愛されているバラの殿堂入りも果たした有名なバラです。詳しく知りたい方は当園ホームページの緑の相談コーナーだよりバックナンバー 2014.5.1 発行号にて紹介されておりますので是非目を通してみてください。

そんな有名なバラから誕生したこの品種の花はクラシカルなロゼット咲きで、明るいアイボリー色にほんのりと桃色がのり、咲き進むにつれて白一色になります。花色以外はほぼピエール～の性質と同じで香りが微香であるものの、強健性、耐寒性、耐暑性と白の大輪つるバラの中ではトップクラスで優秀な品種です。近年では、同じくピエール～の枝変わりでローズピンク色の、ロゼピエールドゥロンサールという品種も発表されています。他にもルージュ

ピエールドゥロンサール(以下、ルージュ～)という品種も存在します。同じ名前をつけられているのでこれも血縁関係があるものだと思っ  
ていましたが、血縁関係はありません。ルージュ～は作出者が同じメイアンであり、花形が似ていることから名前をつけられたのかもしれない。ルージュ～は繰り返し咲き、強香で花保ちが抜群に良くピエール～の進化版のような品種です。フランス語で「ルージュ」は赤を、「ブラン」は白を意味し、名前は花の色にちなんでつけられていることがわかります。

このコーナーで紹介している品種は、ほぼ当園で栽培しているものばかりですが、この品種も当園のウェルカムガーデンで栽培しており、ルージュ～も近くで栽培しています。正直あまり生育が良くないのですが、開花時はとても魅力的な花を見せてくれます。また色彩館ではピエール～も栽培しており、見上げるほどの大株・大輪で、外のバラ園より早く4月下旬ごろに開花しますので、是非当園に足を運んでください。



入場無料!

# 第8回 いわみざわ洋らん展

日 2017年2月16日(木)～  
程 2月19日(日)

時間：9:00～17:00  
(最終日は16:00まで)  
場所：いわみざわ公園バラ園  
室内公園色彩館ロビー

最終日  
2/19(日)は  
講習会も  
あります!



## 出展募集!

丹精込めて育てたあなたの一鉢を出展して、会場をランの花園にしてみませんか? 出展料は何点でも無料です。

お申し込み：2月11日(土)までに 洋ラン愛好会 秋葉さん  
(0126-56-2110) まで

## 2月の市民園芸講座のご案内



- 2月19日(日) 13:00～15:00 洋ラン栽培の楽しみ方  
料金：無料 定員：40名  
講師：川面 豊樹さん えるむ花園
- 2月26日(日) 9:30～12:00 いわみざわ公園のアニマルウォッチング  
料金：無料 定員：20名  
講師：若林 信男さん 岩見沢野鳥の会会長